

シリーズ

鑄造技士

解体新書

「鑄造技士 (Foundry Expert)」とは、鑄造カレッジで鑄造に関する専門的な知識、技能を学び、「鑄造現場で一連の鑄造工程において必要な要素技術を科学的・理論的に理解でき、その理解の上で各生産工程に関与しつつ製品出荷までのプロセス全体を統括・管理でき、さらにマネジメント能力を持つ人材」であることを認定された、鑄造のスペシャリストです。

このシリーズでは鑄造技士の方々を徹底解剖し、ご紹介していきます。

現在お勤めの企業について教えてください。

私の所属している (株)伊藤鑄造鉄工所は茨城県東海村にあり、鑄造素材製作から機械加工まで行っている会社です。主に建設機械の足回りの部品を主とした製品の製造を行っており、ベトナムにある2つの海外工場とタイアップして、世界のどんな企業にも品質、価格ともに負けないグローバルな企業を目指し生産活動を行っております。

現在担当されているお仕事を教えてください。

主に造型部門の管理者として、業務をさせていただいております。日常管理はもちろんですが、個人的に重要視しているポイントは、改善活動と現場スタッフの方のモチベーション向上を考えながら、日々楽しく仕事をすることです。生産現場の管理者なので、特にモチベーションの維持向上は重要と考えており、現場のスタッフと積極的にコミュニケーションを取り楽しく仕事ができる環境作りは今後も進めていきたいと考えております。

鑄造カレッジでの思い出やエピソードを教えてください。

鑄造カレッジの受講時は、まだコロナ禍が少しずつ収束してきている段階で、受講はWebでの開催が主になっており、同期の受講生とあまりコミュニケーションが取れなかったのが残念でした。私事ではあるのですが、ものづくり大学でのインターンシップでは同期との受講ができませんでした。しかし、コロナ禍全盛期でインターンシップが開催できなかった、前年度の鑄造カレッジ受講メンバーと共に受講する事ができました。通常ではありえない、前



今月の鑄造技士

さん

生年月日…

所属…(株)伊藤鑄造鉄工所 第一生産部

好きな食べ物…寿司

休日の過ごし方…子供たちとのコミュニケーション

年度のメンバーと顔を合わせる機会は貴重な経験となり、楽しく受講させていただくことができました。また、同期の方とは工場見学等と一緒に参加することができました。鑄造カレッジでの繋がりや経験は今後の業務に活かしていきたいと考えております。

鑄造技士になって良かったと思うことはどんなことですか。

鑄物に対し、考え方が変わってきたとは感じております。社内で得られない知識や考え方の勉強ができ、個人的なレベルアップに繋がりました。この「鑄造技士解体新書」の執筆の機会を得られたのも鑄造技師になれた特権だと思います。自分の紹介をこのような形でする機会はあまりないので、いい経験になりました。紹介の繋がりで自分の名刺に鑄造技士の表記が付くようになり誇らしく思いました。

鑄造に関わって良かったことはどんなことでしょうか。

入社時からの事を振り返ると鑄造や会社を通して大きく成長させていただいていると実感しています。高卒で入社した際は、鑄造の意味も分からず入社しました。始めは何も考えずに若さ故の行動や態度が周囲の諸先輩方に多大なご迷惑をお掛けしていたと今更ながら感じております。しかし、現在まで(株)伊藤鑄造鉄工所に関わらせていただく中で、鑄造のものづくりの難しさや楽しさを周りの方々と一体感を感じながら楽しく学んでいます。高校卒業から14年が経ちましたが、鑄造の奥深さや生産工場の難しさを日々勉強しながら過ごしています。鑄造だけではないかもしれませんが、鑄造を通してものづくりの楽しさが少しずつわかってきたと感じます。

これからの抱負を教えてください。

ご縁があり、鑄造業に携わっている人間として、会社の役に立てる人間になりたいと考えます。専門的な知識は多く必要ですが、自分の成長の為にも多くの事を吸収し会社人生30年以上残りあるので1日1日を大切に成長していきたいと考えます。



趣味があまりないので休日は基本的には家族と行動しています。家族第一で考え、リフレッシュする事ができており、毎日充実しています

将来の夢は？

一攫千金で大金を手に入れ、地元の友達達と集まれる大人の男のたまり場を作りたいです。そこでは、趣味の共有や酒飲み場などで活用し大切な人たちと時間を過ごせれば最高だと思います。そしてそのあとの時間は、家族の為に穏やかに過ごすことが将来の夢です。来年になるか何年後になるか、一生訪れないかわかりませんが、自分なりに楽しく穏やかに過ごせることが一番だと考え、将来の夢をモチベーションにして人生を楽しみたいと思います

My Favorite



毎晩仕事の疲れをリセットしてくれるアイテムです。多めの氷で晩酌をして一日を終えて翌日に備えています。